

特100

430

九月中の
株式の警鐘

東京 財界調査



始



一、事業界の發展と炭礦會社株式	………	一〇
一、流通貨幣八億餘萬圓	………	一一
一、出處進退は大切なり	………	一三
一、八月中株式の變動と將來の覺悟	………	一四
一、九月中株式相場の豫想	………	一六
一、九月中每日の相場觀測表	………	一七
一、財界調査會の規則	………	二二

序 近來株式に對する通信又は書籍の發行頗る多しと雖も善く其止確
 を得たるもの少なしと聞く人氣の集散に因りての變化と最も密接なる關
 係ある國家經濟の基本たるべき株式に對することゝて無暴の浮言に等し
 きものに氣迷ひを深からしむるを遺憾とし之れを正さん主旨を以て豫て
 來實驗したる觀則と周到なる調査を基として本書を綴り公表せんとする
 ものなり。

素 泉 述

好景氣の發展は今より

歐洲動亂開始以來既に四十ヶ月全世界に沈澱せられたる軍國品は強度の需用起り其製造は補充と新調等過度の供給を爲すの機會に際會せり是れ有史以來未曾有の出來事にして又萬般の事業媒介上に於ける金塊の活動は其速力愈々急に甲より乙に乙より丙と全人類界に散布せられつゝあり而して其國難の大なる國家と其最も少なき且つ事業の進歩したる國家と

は樂悲觀に於て黑白の別あり此秋に金塊輸入の逐日増加せる邦家は上下の別なく國民皆黃金飾に採色せられんとすること照らかなり即ち今や邦家各種の事業界は急速度の發展に盡力しつゝあり從而來たるべきものは何か世界軍資散布金の吸集及び成金國の金塊分取りにあり商業戰爭の準備なり然るに世人兎もすれば邦家の成金時代は既に過ぎたる如く講和恐怖心の大なるものある如し是れ蓋し開國五十年財界不況に慣れたる國民としては一應不得止事なれども吾人をして謂ばしむれば其誤解も亦甚だ

しい哉講和以かゝらん世界物資の欠乏其極に達し人類の慘事深甚なる點に於て將來再び戰禍を生ずることあらんも此際講和は寧ろ歡迎せんぞす如何となれば帝國の置位としては現在までは失ふ處甚だ少なく得たるもの頗る大なり戰爭にして尙繼續せんか戰局の擴大愈々進んで其失ふ處甚大なるものあらん徐かに案じ來たれば講和の成立は獨り他國の爲めならずして邦家の爲めなり加之人類性欲上の安心は購買力の回復となりて現下に於ける帝國事業界の準備は其結果に於て有終成金の策たるぞ

同時に戦時に於ても外交上過ちなくんば其得失も亦可なるものあらん
以上考へ來たれば遠く好景氣の殺到蓋し疑ひなし。

株式に對する好景氣の反響

前項の如く好景氣は獨り金塊の増加を以てのみ斷ずべからずして貨幣制
度により整理せられ兌換券となりて邦家の全般に涉り智識學識勞力等
及天賦の財源又は新領土に於ける富源等に對しての從者となりて能く複

産的の勢力を増大し發展しては海外他國に對して萬物に超越したる權威
を獲得し前途増々輸入せられんとする金塊をして遊資たらしめず全く活
動的資本として愈々複産的能力を有効に發揮せしむるのである内地に新
領土に又は最新占領地に於て其最も進歩したる方法は各種事業會社なり
無限に増加しつつある金塊は邦家全株式の價格を昂騰せしめ又は新事業
を企畫せしむるのである開國五十年奮闘努力克く捷ち得たる帝國の國際
的置位經濟的勢力は將來那邊に進轉すべきや要するに偉大なる進歩あり

て何等の悲觀を容さざる維新と斷せんとす仍て經營者其人を得事業にし
て確實なる會社ならんには其株式は漸進と急進とを不問昂上の一方なる
べし「從らに臆病なることなく本會の指針を好參謀として樂觀の一步に
魁せられんことを」

將來安全にして有望なる株式

日本郵船株式會社 は所有船舶壹百隻噸數四十六萬二千三百五十一噸帝

國海運業の霸王として世界を通じて亦有力なることは一般に認めらるゝ
處而して大正六年上半期營業成績は利益金實に年十四割金額一千九百五
十萬圓前期繰越益金一千八百九十餘萬圓株主及從業者配當金一千百二十
萬圓拂込資本金二千七百五十萬圓積立金其他金六千二百餘萬圓配當年七
割總資本金四千四百萬圓八月現在拂込資本金三千三百萬圓又船舶時價は
約三億七千萬圓是れに土地建物其他の固定財産を加ふる時は資本金の
何倍なるか實に基礎堅固と評して餘りあり加之戰爭に因る船舶の破碎

せられたるもの多數にして其補充は世界造船業者が全力を傾注するも今
後四五年を要すべく從而運賃の騰貴は底止する處を知らざるものゝ如し
海國としての我國は産業開發及維持上永く其不便に堪へ難きは勿論會社
の利益の爲めにも事業擴張は急務中の急務なり然り會社及大株主間
に於ては増資の計畫成らんと邦國の爲め喜ばずんばあらず斯く論じ來た
れば其有望なること比ぶるにもものなからん今や舊株式五十圓拂込一株金
四百圓配當年七割として利廻り年八朱豈割安ならんや加之増資の成立

は新株一株の權利金二百圓として得る處皆株主のものなり講和の成立に
因る株式價格の變動は一時的なり將來に所有して安全有望なること多言
を要せず。

既設製紙事業會社株式

王子製紙及富士製紙株式會社 困難なる事業として創立以來競争者殆
ど表はれず外國品輸入防止に付て英意研究を怠らざりし結果は遂に其目

的を達し進で海外に輸出と自然的販路の擴張と世界的需用の増進は穩建に其度を進めつゝあり殊に其堅固なる設備と熟練したる技術とは永く株主の福音なるのみならず戦後は事業擴張の不得止ものあらん。

各種事業界の發展と炭礦會社株式

北海道炭礦汽船株式會社 株式は穩健なる發展を持續すべく殊に東洋事業界の霸王としての三ツ井系統が全力を傾注して英意經營の任にあり

安全と信用に値ひするものなり。

流通貨幣八億餘萬圓なり

大藏省調査本年七月末日現在高

金貨

補助貨

計硬貨

五八、四〇五、七六二圓

一三九、七八二、九四〇圓

一九八、一八八、七〇二圓

兌換券

總計金

前年同月末日に比較増加額

増加額

六六七、九四六、八一三圓

八六六、一三五、五一五圓

二六〇、三二一〇、〇九四圓

通貨の膨張に對しては其收縮調節策専ら世人の論題なると同時に政府亦頗る留意して外國債應募に内債發行に金利の維持株式放資に警戒行はれつゝあるも金塊の輸入は超然として底止せず世人の論題と殆んど交渉な

く遂に兌換券の増發を餘儀なくせしめんとす將來の物價の標準株價の置位豈現在に變化なからんとするも不能なり。

出處進退は大切なり

現下の株式投資は大勢に於て深く懸念するの要なきこと勿論なれ共亦所有株式の賣却又は新らしく買付けんとする時は自ら高値に賣り安値に買付くる等財界に處する上に於て注意を怠るべからず人氣關係材料關係

等調査の完全ならんには禍ひも轉じて福音たるべし。

八月中の株式變動と將來の覺悟

八月一日發會に於て不況に陥りたる相場は露國々内の動搖に因りたるも既に悲觀を極めたる反動と金融の緩漫は僅かに一兩日を以て回復向上したり乍然高値には警戒的賣物あり爲めに再び十日前後を天井として月末に至るまで不振不況郵船北海炭硫製紙株等を除くの外は概ね發會

生れ値より安値に納會せり即ち東株新の安値は百九十六圓高値二百二十六圓納會二百六圓なりし之れを要するに七月中暴騰したる綿糸生糸期米等の一大反動期に入りたる爲め強く株式に對する警戒を深からしめ講和問題の殺到と共に氣迷ひを一層大ならしめたるに起因するものにして前途は増々波瀾重疊なるべく即ち講和は自然に接近せんとしつゝ、あり突發的材料は眞面目なる人士にまで肉迫するの恐れなしとせず然りと雖ども大勢に於ては何等の惡變化あるべからず宜敷堅實なる駈引を以て努力の

効を亡ふせざらん心掛肝要なるべし。

九月中の株式相場の豫想

陰の極ありて陽氣發生せんとするの兆照らかなり
買方は徒らに狼狽的投げ退きは大きな禁物今は大反撥前に於ける大保合
分岐含みの時、新規手筋は十日頃より買ひ進むべし
賣方は新甫は先づ以て自重し利有り買越すべし、之れを要するに九月中

の相場は觀測により月始めは氣迷ひ安値運びの商狀ならんも其處を分
岐點として下旬に涉り一大反動高あらん二十日過ぎ高値待ち利喰賣退き
を可とすべし要するに前月中の安値は高値待ちに過ぎたる玉の厭氣投げ
を生じたるものと知るべし大勢上内外の形勢邦家の爲め何等憂ふるも
のなしと斷ず。

九月中毎日の相場觀測表

一 日
三 日
四 日
五 日
六 日
七 日
八 日

弱保合賣方針可ならん

引續き安し

大に安きものは利喰妙ならん

前場安後場引返しあらん

強味ある寄付買方針よし

前場買ふべからず後場安値あらん

賣方針の他かなし

十 日
十一 日
十二 日
十三 日
十四 日
十五 日
十七 日

戻り賣突込み利喰肝要なり

買方針の他かなし

戻り賣り方針よし

買方針よし

賣方針よし

戻り賣り利喰肝要なり

賣方針よし



十八日

押し買よし

十九日

呼吸押し大ならん

二十日

前場の高きを賣るべし

廿一日

前場の高きを賣り利喰肝要なり

廿二日

賣方針よし

廿五日

突込みたる處を買進め

廿六日

前場高後場安し



廿七日

戻りたる處を賣れ

廿八日

吹き値賣り場所あらん

廿九日

賣方針よし



會員規則

◎相場會員

一ヶ月 普通部金廿圓 特別部金卅圓
三ヶ月 金五十圓 金七十圓
六ヶ月 金八十圓 金百十圓

- 一 相場會員たらんとするものは右の通信料を前納するものなり
- 一 會員には高低期日變化の時機を豫言し置き急變の場合親切を旨として電信書簡を以て駆引仕掛けの方法を通知す
- 一 特別部會員には特別なる通信調査事項等肝要なる通信を爲す

◎委託會員

株式賣買資本金壹百圓以上前納の事

- 一本會は株式賣買委託希望者の爲め特に確實なる委託賣買を取扱ふものとする
- 一 委託賣買は其資本金の程度に因り相當の株式を賣買す
- 一 賣買の方針仕掛け手仕舞は委託者に報告するものとする
- 一本會は委託賣買利益の三割を手數料として申受くるものとする
- 右入會は前金到着の時を以て確定するものとする

11/11

高津

大正六年八月三十日印刷
大正六年九月三日發行

不許
復製

編輯者 高津朋吉
印刷所 喜文堂
印刷者 宮崎三郎
發行者 財界調查會

定價 金貳圓

東京市本郷區切通坂町五十一番地
高津朋吉
東京市京橋區山下町二番地
喜文堂
東京市神田區小川町十一番地
宮崎三郎
財界調查會

東京市神田區小川町一番地

財界調查



終

